

資料 4

目標達成のための具体的な取組みの進捗状況

説 明		21年度計画	21年度中間、実施状況	21年度中間、実施状況に対するコメント	評 価	
医師確保対策	医師修学資金貸与医学生生の確保、定着促進	但馬出身の医師志望者に修学資金を貸与することにより、将来、公立豊岡病院組合立病院で診療に従事する医師の確保を図る。(修学資金貸与額6年間計1,020万円)	医師修学資金貸与医学生 新規3名貸与 医師修学資金貸与医学生の研修医としての受入 2名	新規 2名へ貸与 累計 21名へ貸与 研修医 2名受入	平成22年度以降も3名程度の募集を継続する。	○
	医師のキャリアアップ支援	医師の豊岡病院組合への定着を図るため、医師のキャリアアップへの支援を行う。	学会専門医、認定医取得経費支援 学会年会費助成	14件 4件	学会年会費助成については、例年1・2月に申請が集中する。	△
	医師の業務軽減	医師の労働環境を改善し、豊岡病院組合への定着を図る。	医師事務作業補助員の配置 実施時期：H21年4月(18名)	10月に7名、11月に1名配置予定		○
	業績に対する評価・報奨	業績の上がった診療科に対して、自由に使える予算を配分し、意欲を高める。	引き続き業績評価報奨制度の継続を行う。	配分方法の見直し(病院長の権限を強化)を実施	制度の運用方法について、引き続き検討を行う。	○
収入向上対策	新たな施設基準の取得	診療報酬上有利となる施設基準を取得し、収益の向上を図る。	7対1看護基準、医師事務作業補助体制加算、X線CT(マルチ加算、フィルムレス加算)を取得する(見込額：34百万円)	X線CT(マルチ加算、フィルムレス加算)施設基準の取得：4月取得 7対1看護基準取得：8月取得(効果額：38百万円)	計画上の施設基準は取得したが、7対1看護基準取得のため、看護師の再配置を行い、救命救急入院料加算を取り下げた。看護師の確保が課題	△
	組合外加算の見直し	豊岡市及び朝来市から補助金が投入されていることから、構成市以外の患者から加算金を徴収することにより、負担の公平化を図る。	制度を継続する。(非紹介患者加算3割、時間外加算3割、室料差額加算3割、分娩介助料加算12千円)	制度継続中 収入増7.7百万円	導入当初は、周知不足によるトラブルもあったが、現在は問題なく運用されている。	○
	未集金の発生率の抑制及び未収金の回収率の向上	H20年度の発生率0.5% 回収率15%	数値目標は定めず	医事担当者会で、未集金業務の協議を実施	数値目標を定め、計画的に実施する必要がある	△
	遊休不動産の売却	不要の不動産を売却することにより、収入を確保する。	H23年度実施のための、調査及び検討	桜町医師住宅(豊岡市)、秋葉台医師住宅(朝来市)の評価額調査を実施		○
	有料広告の募集	広告看板等の設置、領収書裏面、HP、広報紙「ほすびたる」への広告掲載等の検討	実施時期：H22年1月	広報委員会で検討中	HPについては、H22年4月実施見込み	△

説 明		21年度計画	21年度中間、実施状況	21年度中間、実施状況に対するコメント	評 価	
医療機能向上対策	病診連携・病病連携の強化促進	必要に応じて、患者を診療所から地域の核となる病院に紹介することにより高度な検査や医療を提供し、快方に向かった患者は元の診療所で診療を継続（逆紹介）するしくみの強化	紹介率：38.7% 逆紹介率：23.0%	紹介率：33.1% 逆紹介率：25.5%	紹介率が目標を下回っているため、病診連携ニュースの発行頻度を上げることを検討している。	△
	7対1看護の効率的な運営推進	看護職員1名が受け持つ患者を現在の10人から7人とし、手厚い看護を実施する。豊岡病院で実施。	実施時期：H21年8月	計画通り8月より実施	看護師の配置基準ギリギリの状態が続いている。	○
	DPCの効率的運用	DPCとは、入院患者の傷病・疾病の種類により医療費が決まる包括診療報酬制度で、総医療費の抑制につながることを期待されている。（従来は出来高払制）豊岡病院で実施。	患者別・疾病別の原価管理を行うための準備を行う	外来での検査、持参薬の推奨を実施	診療材料購入の検討（経費削減対策に記載）に併せ、検討する	△
	クリニカルパスの推進	標準化された治療スケジュールを予め患者へ提示することにより、患者や家族の治療への理解が促進される。	クリニカルパスの開発促進	新規開発パス数 病棟用 2種 外来用 8種 開発済パス数(H21.9月末) 病棟用 81種 外来用 21種	今後も、パスの開発と実施に努める	○
	連携パスの推進	施設間のクリニカルパスで、現在国により、脳卒中と大腿磯鶏部骨折のパスが認定されている。	脳卒中の連携パスの策定	策定済み (9月実施より実施)		○
	病院機能評価の受審とフォローアップ	第三者機関の実施する病院機能評価を受診することにより、病院の弱点を把握し、改善に繋げることができる。（5年毎に実施）	今年度受審予定なし	受診時の機能評価基準を保っている。	豊岡病院（H20実施済） 和田山MC（H23予定）	○

説 明		21年度計画	21年度中間、実施状況	21年度中間、実施状況に対するコメント	評 価	
経費削減対策	競争原理の働くような契約方法等の見直し	従来の慣例に拘らず、契約方法を見直し、経費の削減を図る。	随意契約の見直しを行う。	可能な範囲で1社随契については数社見積徴収に変更した	競争入札に馴染むものについては、導入を検討する	×
	診療材料購入の外部委託化の検討・実施	医業費用の3割を占める診療材料の経費を削減するための方法を検討・実施する。	平成22年度導入のための検討を行う。	実施に向けての業者ヒアリングを実施		△
	適正な人員配置による委託化・臨職補充	退職者不補充（委託化・臨職化）により、人件費を抑制する。	23名の退職者を予定	50名以上の退職希望	予定を上回る退職希望者があるため、適正な人員配置を検討していく。	△
	業務委託の推進	効率化できる業務の委託を推進する。	業務委託により効率化できる業務と出来ない業務の切り分けを検討する。	組織のあり方について検討を実施	退職者の動向と併せ、引き続き検討を行う必要がある。	△
	後発薬品の使用率の向上促進	先発薬品から後発薬品に切り換えることにより薬品費の削減を図る。特にDPC（包括診療報酬制度）で効果が大きい。	5%（金額ベース）	4.6%		△
	補助金免除繰上償還の実施	国による臨時特例措置の活用で途中解約に伴う違約金が免除され、低利息資金への借換えによる利息支払いの軽減（H20年度借換済）	効果額22.1百万円	計画通り実施		○
	適正な給与体系の検討	国、県、構成市との給与等の比較検討を行い、適正な給与体系とする	人事院勧告に準拠	6月期ボーナスで実施		○
	互助会助成金の見直し	職員互助会への助成金の見直し	助成金の見直しの実施	5月に評議員会で組合合意10月より実施		○
経営意識向上対策	BSCの推進と情報共有化	BSC（バランスト・スコア・カード）とは、地域・利用者・仕事・人材などの視点から経営戦略を日常業務へ落とし込むことと特徴とした経営ツール	BSC（バランスト・スコア・カード）を推進することにより情報の共有化を図る。	BSCの見直しを検討	H17年度より取り組んできたが、より豊岡病院組合にマッチしたのを見直す必要がある。	△
	全職員での経営改善への取組（ワンコイン作戦）	収入向上対策・経費削減対策に上げられていること以外で、職員のひとり一人が1日500円分の経営改善へ取組心構えを持って業務に当たる。	職員へのワンコイン作戦の周知	職員に十分浸透しているとは言いがたい。実施例：書籍加除の見直し、裏面コピー、節電への取組等	特定の職員・部署では実施されているがさらに周知する必要がある。	△
広報及び	ホームページの充実	病院組合の情報戦略の一環として、ホームページの充実を図る。	組合内5病院のHPの統一的な運用を検討する。	広報委員会で検討中	H22年4月実施見込み	○

説 明		21年度計画	21年度中間、実施状況	21年度中間、実施状況に対するコメント	評 価
連携 対策	「ほすびたる」 「FMジャングル」等による積極的な情報提供等	病院組合の情報戦略の一環として、各種媒体を利用して市民への情報提供を図る。 ほすびたる：隔月（年6回）発行 FMジャングル：週2回放送（各15分）	ほすびたる：隔月発行 FMジャングル：週2回放送 朝来CATV：2回放送	より効果的な広報手段を研究する必要がある。	○